

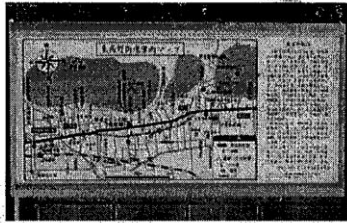
新古今物語 第15話

大東ふるさとカルタに見る地域遺産⑥  
「この道は 高野に続く 祈り道」

市東部のふもとには南北に縦断する道路が走っており、現在は旧170号線としてバスなどの往来が盛んです。北条6丁目の十念寺付近からさらに東に分岐すると、土色系のカラー舗装のされた道があります。古道の面影をよく残しており、この道が東高野街道と呼ばれています。

東高野街道は、京都府八幡市で京街道（大坂街道）と分岐し、当時の河内国の東部を南下し、大阪府河内長野市で西高野街道と合流します。以南は高野街道として紀見峠、橋本を通り高野山へと至ります。

いつごろ、道として整備されたかは明らかではありませんが、できるだけ直線になるように通されていることから、自然発生的に造られた道ではなく、計画的に建設された古代道路、長岡京・平安京時代の官道であった南海道



東高野街道説明板（野崎まいり公園前）



東高野街道（北条6丁目付近）

が前身であったと考えられています。また、この街道はかつて存在した大きな深野池など周辺の湿地帯を避けて生駒山地の西ふもとを通ることから、江戸時代の貝原益軒は「南遊紀行」の中で「山の根道」と表現しています。その後、官道としての重要性は薄れ、弘化7（1816）年に空海（弘法大師）が高野山に金剛峯寺を建立した以降は高野参りが盛んになり、参拝道として賑わいました。なお、市民の皆さんに広く知っていただくため、東高野街道沿いの野崎まいり公園前に説明板を設置しています。

（生涯学習課）



新古今物語 第16話

古文書から見える大東の歴史③  
江戸時代の地域社会と「イエ」

江戸時代に地域的まとまりの単位として「ムラ」があったことはよく知られています。そして、その下にはそれぞれ「イエ」が存在していました。建物を表す「家」と区別して、家族によって構成された最も小さな社会集団をイエと呼びます。イエはそれぞれがその集団の中で強いつながりをもって暮らし、そのイエを絶えることなく継続していくことが重視されていました。

一方、支配者層は農耕を行い、税を請け負う存在としてイエを認識し、維持・管理をしていたため、各イエの存続について村役人が力を貸すこともありました。例えば、家出をして23年間江戸で働いて帰ってきた者を、家族として受け入れたいと考えたり、お咎めを受けて居所追放となった者が親の体を気遣って、その親の老後の面倒を見るので罪を許してほしいと役所に願い出たりしています。



父親の面倒をみたいので罪を許してほしいと願い出た古文書（文化10（1813）年12月）

跡を相続させたりしていることを古文書からうかがうことができま

このことから、支配者層は家族によって構成されていたイエの継続を重視していたことが分かります。

こうした「イエ」に視点を当てた古文書は、1月8日から3月31日まで歴史民俗資料館で展示されています。

（市史編纂委員 岡村喜史）